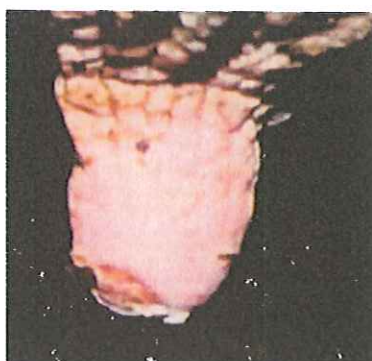
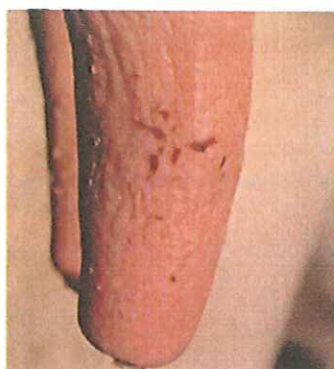
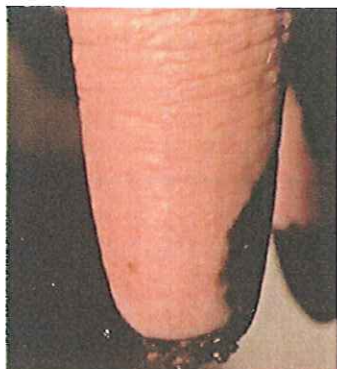


～ あなたの乳首を守りたい…… ～

● 冬季の乳頭の乾草と凍傷

この時期、乳頭があかぎれしている牛はいませんか？冬場は皆さんの手と同じように毛に覆われていない牛の乳頭もあかぎれを起こしやすい環境にあります。

↓農場の牛の乳頭はどんなコンディション？



● 乳頭コンディションにダメージを与える要因

- ・天候 : 気温、湿度、風
- ・牛舎環境 : 風雪に曝される環境、敷料の有無などストールコンフォート
- ・搾乳 : 過搾乳など搾乳手技の問題
- ・物理的要因 : 乳頭の踏みつけなど
- ・感染 : パピローマウイルスなど

● 冬場の乾燥促進

意外かもしれませんが、冷風は温風よりも乾燥が促進されます。牛が立っている状態で寒風にさらされる環境下であれば乳頭の乾燥はそれだけ促進されます。また、冬場は湿度が低いことでさらに乾燥促進。

⇒皆さんの手のあかぎれと同じように、乾燥している皮膚はかんたんにひび割れを起こし、あかぎれを誘発します。

⇒あかぎれを起こした皮膚は細菌が繁殖する絶好の住処！乳房炎の起因菌になるブドウ球菌も繁殖しやすいので乳房炎のリスクが増加します。

● 凍傷メカニズム

寒いと血管が収縮するため、乳頭のような末梢組織は血流が悪くなりどんどん冷たくなります。また、寒くなると空気中の水分量が減少するため、体表の水分はどんどん奪われていきます。体の水分が抜けていくと体温も奪われていくため、さらにどんどん寒くなり、風が吹いていると加速度的にこの現象が進み、結果凍傷に至るわけです。

凍傷を防ぐには温めてやれば良いのですが、なかなかそれは難しそう。そこで体表（乳頭表面）から水分が奪われないようにハンドクリームのような膜で覆ってやると乳頭の乾燥・凍傷をやわらげることができます。

● ディッピング剤を変えてみる

通常市販されているディッピング剤は水分 80%以上とヨードとグリセリンで構成されており、水分の多いディッピング剤の場合ディッピング剤が乾く前に凍結したり、ディッピング剤が乾燥すると同時に乳頭表面の水分も奪って行って保湿性が失われたり、など牛舎環境によっては乳頭が乾燥しやすい可能性があります。

一方、ウィンターエイド（全葉）のようなグリセリンが 50%と多量に含まれ水分含量が抑えられたディッピング剤を使用すると、水分が少ない分ディッピング剤の乾きも早く、乾いた後にグリセリンの膜に覆われて乳頭表面の水分蒸発を防ぐ作用があり、極寒期の乳頭の荒れを防ぐ効果が期待できます。ちなみにウィンターエイドはディッピング剤の凍る温度も -29°C となっており、ここ道東の極寒期でも使用に耐えうるディッピング剤かもしれません。

乳頭にトラブルがある場合、一度検討してみてもはいかがでしょうか？

